

平成25年度青雲中学校・青雲高等学校自己評価表

学校教育基本方針	急速に進歩発展する科学技術、そして、それによってもたらされる情報化社会、知識産業社会に対応しうる基礎的な学力と主体性を有し、社会にとって有為な人材の育成を目指す。そのために、学力のみならず、健康な体をつくとともに、如何なる困難にもくじけない不撓不屈の精神を鍛錬する。
学校教育目標	教育の原点にかえり、知・徳・体の調和のとれた全人教育を建学の精神としている。そのために「ゆたかな知性をつちかい、ひろい心をはぐくみ、たくましい体をつくり、新しい時代に生きる人材の育成に努めること」を目標としている。
重点努力目標	<ul style="list-style-type: none"> ①基礎学力の充実をはかるとともに、将来につながる総合的な学力を養成する。 ②中高一貫教育の特性を活かし、ゆとりある進学指導を行う。 ③日常の指導を通じて、公德心を身につけ、豊かな心を有する生徒の育成を目指す。 ④厳しい躰を通して基本的な生活習慣の確立を目指す。 ⑤体育、武道を通じて、生活の根幹となる基礎体力の向上のみならず、礼節を弁え、克己心を確立した生徒の育成を目指す。

評価項目	具体項目	目 標	具 体 的 方 策	昨 年	今 年	総 括	成果と課題	
1 学校経営 全職員が共通の理念に立った学校経営の参画における教育的成果の評価								
(1)	学校教育目標	学校教育目標の具現化	学校の実態に即した目標が設定され、教職員間の共通理解のもとに、教育目標の具現化を図る。	建学の精神に則った適切な目標を設定する。	3.5	3.5	3.5 →	概ね達成され良好な状況が見られる。
				教育課題や生徒の実態を踏まえて、本年度の重点目標を設定し、具現化に努める。	3.4	3.4		
(2)	学校経営方針	経営方針の明確化とその実践	経営方針が学校内外に明確に示され、教職員間の相互理解と保護者・地域の支持に基づく教育活動を行う。	明示された中長期の学校経営ビジョンを全教職員が共有し、教育実践に努める。	3.1	3.0	3.1 →	経営方針については、達成可能なものを明確に示す必要がある。
				教育方針や育てたい生徒像を生徒・保護者・地域社会等に対して明確に示す。	3.0	3.1		
(3)	学年経営	学年目標の具現化	学校目標に沿った学年目標による経営を行う。	学年目標の教員・生徒への浸透を図り、その目標達成のための教育活動を展開する。	3.3	3.3	3.3 →	概ね達成されているが、学年団のコミュニケーションを一層密にし、教育的効果を高める工夫を期待する。
				学年会議を月1回以上開き、目標の達成状況、指導上の課題等について職員間の共通理解を図り、統一的な指導を行う。	3.3	3.3		
(4)	学級経営	学級目標の具現化	学校目標及び学年目標に沿った温かい学級づくりを行う。	学校目標や学年目標に沿って、学級の実態に応じた学級目標を設定し、学級経営を行う。	3.3	3.2	3.1 ↓	生徒が主体的に係わることにできるクラス運営を工夫する。
				個別面談を学期に1回以上実施し、学級生徒の多面的理解を深める。	3.3	3.2		

			生徒が主体的・意欲的に活動する学級経営に努める。	3.2	2.9		
--	--	--	--------------------------	-----	-----	--	--

評価項目	具体項目	目 標	具 体 的 方 策	昨 年	今 年	総 括	成果と課題	
2 教育活動 教育活動全般における計画的、組織的な教育的成果の評価								
(1)	教育課程の編成	創意工夫を生かした適切な教育課程の実施	学習指導要領の主旨が生かされた特色ある教育課程を編成する。	3.5	3.4	3.3 ↓	中高一貫6カ年教育の特性を活かした教育課程を工夫する。	
			教育課程の実効性や、教育目標の達成状況を定期的に検証する。	3.2	3.2			
(2)	教科指導	わかる授業の展開と工夫・改善	各教科科目の年間指導計画（シラバス）を作成し、学習目的や学習方法を事前に生徒に説明する。	3.2	3.2	3.2 →	公開授業週間の利用度を高める工夫を行い、教師間の研修の機会を増やした。また、授業アンケートも次年度は回数を増やし、わかる授業の展開を求めたい。	
			基礎学力・基礎技術の習得の徹底を図る。	3.3	3.2			
			教科の専門性や指導力の向上に努め、効果的な授業を行うための研究や研修を深める。	3.3	3.2			
			外部講師を招聘し、難関大学を志願する学力水準の高い生徒に対する授業の在り方（教材、指導法等）についての研究を深める。	2.8	2.9			
			わかりやすい授業づくり・授業改善を推進するため、生徒による授業評価を定期的実施する。	3.5	3.5			
	適切な学習評価	教職員の共通理解のもとに適切な評価を行う。	評価基準に基づき、共通理解のもとで評価を行う。	3.2	3.4	3.3 ↑	公平・公正な評価になるように勤めている。	
			評価をその後の授業にフィードバックし、指導と評価の一体化を図る。	3.1	3.2			
(3)	総合的な学習の時間	狙いが明確で創意工夫をした活動	学習指導要領のねらいをふまえて、地域や学校の特色を生かした活動を行う。	3.0	3.0	3.0 →	国際理解・郷土文化への関心を高める学習活動を意識した。	
		ホームルーム活動の充実	学校・学年の教育目標に沿った年間計画による活動をする。	年間計画に基づいて、事前準備をよく行い、活発なホームルーム活動を実践する。	2.9	2.8	2.9	「生徒会」活動によって生徒の自発性・自主性を引き出すように工夫を凝らした。「青雲ラリー

(4)	特別活動	委員会活動の充実	生徒の自発的・自主的な活動を推進する。	生徒の自発性・自主性を促し、積極的に委員会活動に参加させる。	2.8	2.8	↓	」の時期・内容などの変更、青雲祭の保護者の係わり方の見直しなど、次年度への課題が見られる。
		学校行事の充実	実態に即した効果的な行事での活動内容を工夫する。	効果的な学校行事となるよう、常に見直しを行い、活動内容を工夫する。	3.2	3.1		

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	昨年	今年	総括	成果と課題	
2 教育活動 教育活動全般における計画的、組織的な教育的成果の評価								
(5)	生徒指導	基本的な生活習慣の確立	生徒理解に基づき、全教職員であいさつ・マナー・礼儀等のきめ細かな生徒指導を行う。	出席率を高め、遅刻者をゼロにする運動を推進する。	3.3	3.2	3.2 ↓	「挨拶」「乗車マナー」など基本的な生活姿勢において、まだまだ不十分な点が指摘される。
				あいさつや礼儀、容儀等の指導を徹底し、節度ある規則正しい生活を身につけさせる。	3.3	3.1		
(6)	進路指導	進路指導の充実	系統的・計画的な進路指導を行う。	進路選択に役立つ情報を学年に応じて系統的に提供する。	3.3	3.3	3.2 ↓	「中学3年の学習合宿」「中3・高1のトップ合宿」「首都圏研修」に加えて、次年度は「高2の学習合宿」を実施する。向学心を高揚させる機会を多岐にわたり工夫したい。
				進路実現に向け、模擬試験や検定試験、座談会・講演会、三者面談等を計画的に行う。	3.6	3.6		
				教科の学力向上とともに、大学・専門関係者によるきめ細かいガイダンスを行い、大学受験において、受験者数については、東京大学40名を目指す。高校1年・2年においても東大志望者増加をはかる。進学実績は目標200点とする。	2.9	2.7		
(7)	読書教育	読書活動の充実	読書活動を通して、豊かな人格と落ち着いた生活態度を養う。	図書だよりの発行に努めるとともに、図書委員を活用して図書館の利用や本の貸し出しの拡大を図る。	3.3	3.3	3.3 →	新しい図書館において土日開放などの成果をみたい。
(8)	健康・安全教育	健康や安全に対する態度の育成	健康・安全な生活を送るための指導を行う。	生徒の心身の健康について、学級担任・養護教諭・分掌等の連携を密にした指導を行う。	3.2	3.2	3.2 →	「いじめ・悩み」「体罰」などの調査を定期的に行い、生徒の心のケアについては配慮した。スクールカウンセラーの先生による講話を適宜行い、心の教育の充実をはかった。
				健康についての調査・指導を計画的に実施する。	3.1	3.2		
			安全な生活を送るための組織づくりを行う。	安全確保について生徒への啓発を促し、組織的に対応できる危機管理体制を整える。	3.2	3.1		

		健康な心で生活を送るための指導を行う。	悩みを抱える生徒の早期発見に努め、適切な教育相談を行う。	3.4	3.4		

評価項目	具体項目	目 標	具 体 的 方 策	昨 年	今 年	総 括	成果と課題	
2 教育活動 教育活動全般における計画的、組織的な教育的成果の評価								
(9)	人権・同和教育	人権尊重に対する普遍的価値観の醸成	人権尊重に関するさまざまな課題を認識させ、解決のための実践力を身につけさせる。	日常の教育活動の過程において、人権尊重の精神を培うことにより、互いに助け合い協力しながら課題を解決しようとする態度を育成する。	2.9	2.9	2.9 →	人権教育の研修における伝達講習などを行い、日常の教育活動に活かすように工夫した。
(10)	部活動	部活動の活性化	部活動と学習の両立をはかり、健全な部活動を奨励する。	部活動への参加により、学校生活の満足度を高めるとともに、学習との両立ができるよう支援を行う。	3.0	2.8	2.9 ↓	「部活動」と「学習」の両立が困難となっている現状の中で、中学を中心に、部活動を積極的に奨励し、生徒の活動領域の拡大につとめたい。
				部活動を通して、達成感や挫折感等を共有する過程で、忍耐力及び協調の精神、コミュニケーション力等のたくましい人間力を育む。	3.0	2.9		
(11)	ボランティア活動	ボランティア活動の充実	ボランティア意識の高揚を図る	ボランティア情報を提供し、主体的な参加を奨励する。	2.5	2.6	2.7 ↑	ボランティア遠足として楽しみながら地域に貢献する機会を設ける。
				施設等への訪問活動や環境美化などの身近で取り組みやすい活動の機会を設定し、奉仕の心を育成する。	2.6	2.7		
(12)	資格取得	各種資格取得の奨励	個に応じた指導の一環として、各種資格取得を奨励する。	英語検定など各種のコンテストに果敢に挑戦することを奨励し、学習意欲の喚起につなげる。	3.5	3.5	3.5 →	数学ジュニアオリンピックなどの参加を促し、効果を期待したい。
3 組織運営 教育活動の円滑化、教師集団の協働性に関わる教育的成果の評価								
(1)	校務分掌	適切な役割分担、組織的な活動と運営	各自の役割分担が明確であり、分担に応じて適切に校務を処理する。	年度の実態に応じ、各分掌の課題確認と分掌業務の改善に努める。	3.3	3.3	3.2 →	それぞれの校務分掌の役割を明確にし、縦割りではない、お互いが協力し合う体制作りを行う。工程表を月ごとに整理させる。
				校務全体の円滑な推進のため、各分掌間・学年間の相互連携を図る。	3.1	3.1		
				分掌ごとの業務記録、資料保	3.3	3.3		

				存に努める。				
(2)	各委員会 (先生 方の 運営 組織)	目的に 応じた 適切な 委員会 の設置 とその 運用	目的に沿って適切に委員会を設置し、運営する。	各委員会の設置目的を確認し、その実現に向けて効果的な話し合いを行う。	3.1	2.9	2.9	「いじめ防止対策委員会」「図書館運営委員会」を新設する。ただし、あまり多くならないようにしたい。
				各委員会(運営委員会等)での話し合いの結果を教職員の各業務に反映させ、教育活動や学校経営等に生かす。	3.0	2.8	↓	

評価項目	具体項目	目 標	具 体 的 方 策	昨 年	今 年	総 括	成果と課題	
3 組織運営 教育活動の円滑化、教師集団の協働性に関わる教育的成果の評価								
(3)	校内研修	研修体制の確立と実践	計画的・組織的に授業研究等を行う。	生徒の実態や自校の課題を踏まえ、全教職員による校内研修を年3回以上行う。	2.8	2.7	3.2 →	公開授業週間の充実をはかり、授業研究を行う。生徒の発達段階に応じた心理的問題などに対応する研修の機会を増やしていきたい。
				指導実践力の向上を図るため、公開授業及びその検討会（授業研究）等の機会を各教科とも年3回以上行う。	3.5	3.6		
				校外研修の受講者が、必要に応じてその内容を他の教職員に伝達する機会を設ける。	3.3	3.3		
(4)	現職教育	教職員の資質向上への取組	各種の研修に積極的に参加する。	私学協会等で開催される研修会を含め各種研修会に積極的に参加し、教職員の資質の向上を図る。	3.2	3.1	3.1 ↓	新任・中堅教諭の研修は定着してきている。
4 教育環境 学校の置かれている条件や環境に関わる教育的成果の評価								
(1)	学校環境の整備	潤いのある生活環境の整備	日々の清掃を充実させ、美化意識を高める。	日常の清掃活動に全校生徒、全教職員で積極的に取り組む。	3.4	3.3	3.1 ↓	美化活動に対する啓蒙は不足気味であった。省エネの取り組みも数年前と比較すると、意識の低下がみられる。身の回りの整理から始めて、モノを大切に作る心がけを醸成したい。
				特別な清掃活動（大掃除・地域清掃活動等）を年3回以上実施する。	3.5	3.3		
				日常生活の中で環境美化の意識を高める指導に取り組む。	3.1	2.9		
				省エネ運動を推進し、水道使用量や電気使用量を前年比5%減に努める。	3.3	3.0		
(2)	施設・設備の管理	活用と安全管理	施設・設備の有効な活用が図られ安全点検等の管理を適切に行う。	施設・設備については、月1回以上点検を実施し、環境整備を図る。	3.3	3.2	3.2 ↓	新棟建設に伴い、施設・設備の管理には、あらためて十分な配慮を求める。
				施設設備の使用に際して安全かつ有効に使用できるよう職員等への啓蒙を図る。	3.2	3.1		
(3)	情報インフラの設備・充実	教育活動全般の情報化	パソコン等を使った校務処理を適切に行う。	パソコンによる校務処理を推進してデータの共有化を図り、効率的な事務作業を行う。	3.3	3.2	3.3 ↓	個人情報保護に十分な配慮を行い、生徒の指導に有効な成績資料・生活情報の扱いを模索したい。
				パソコン上の生徒情報等の管理の徹底を図る。	3.5	3.3		

			諸帳票類の管理保管体制を整え、適切に運用する。	3.5	3.4		
--	--	--	-------------------------	-----	-----	--	--

評価項目	具体項目	目 標	具 体 的 方 策	昨 年	今 年	総 括	成果と課題	
5 開かれた学校づくり								
(1)	保護者との連携	協力体制の確立	生徒に関する情報を相互に交換する。	保護者との個別面談を年2回以上行い、生徒の状況について学校と保護者が緊密に連絡や情報交換を行う。	3.6	3.7	3.5 ↑	年2回の保護者面談，年1回の学年育成会，12地区に及ぶ地区育成会，それに寮育成会を加え，育成会活動を通じた保護者との連携は充実している。
				育成会総会等を活用し、生徒の状況について説明を行う機会を設定する。	3.6	3.6		
		育成会活動の充実	支援と活性化を積極的に図る。	自主的な育成会活動が活発に展開され、学校もその活動を積極的に支援する。	3.3	3.4		
				育成会関係の会議への参加率向上に努める。	3.2	3.3		
(2)	地域や関係機関との連携	学校間連携の充実	学校訪問などを利用し、関連校との効果的な情報交換や連携に努める。	3.3	3.4	3.2 ↑	毎年1回3校の学校訪問の実施は充実している。今年度は英語科を中心に訪問機会を持った。また、中学における専願受験生の増加や、高校特別専願者選抜の実施など、良好な結果を残した。	
			小中学校あるいは他高，大学と必要に応じた効果的な連携を行う。	関係の深い中学校や大学等との情報交換や連携に努める。	3.1			3.1
				本校入学試験において，専願希望生徒の人数を青雲中学200名，青雲高校80名を超える。	2.6			3.0
		外部講師の活用	教育目標に沿って、外部講師招へいによる教育活動を行う。	年間計画に基づき、安全学習・進路講話・交通講話等に外部講師を積極的に活用し、教育的効果を高める。	3.3	3.4	3.4 ↑	メディア講習会を中学・高校ともに実施し効果をはかった。
(3)	学校情報の公開	ホームページの更新	ホームページを見やすくし、定期的更新を行う	ホームページの更新を定期的に行い、「魅力アップ事業」など含む学校情報の積極的発信に努める。	3.6	3.6	3.6 →	「ホームページ」はほぼ毎日更新され，充実度が増した。特に，寮生保護者には，喜ばれた。
				学校情報の内容（諸活動）が、ホームページ更新に反映されるよう担当者との連携を図る。	3.6	3.5		
		学校情報の広報	学校方針や具体的教育活動についての情報を保護者等へ積極的に提供する	学校方針や具体的教育活動について適切な情報を地域や関係機関に提供するため、学校新聞（青雲通信）を年2回以上発行する。	3.6	3.6	3.6 ↑	年々広報活動の充実は目を見張るものがある。入試説明会の参加者数，オープンスクールの参加者数ともに増加し，本番の入試受験者数の増加にもつながった。
	ポスター配布や説明会の開催など適切な広報活動を行い，入試説明会参加者数	3.5	3.6					

				270名以上を目指す。				
				学校の特徴を感得・理解する 機会としてのオープンスク ールにおいて、350名の参 加を目指す。	3.5	3.6		